

見

雜載

柳菴禁令抄

至慶安三年

共十三

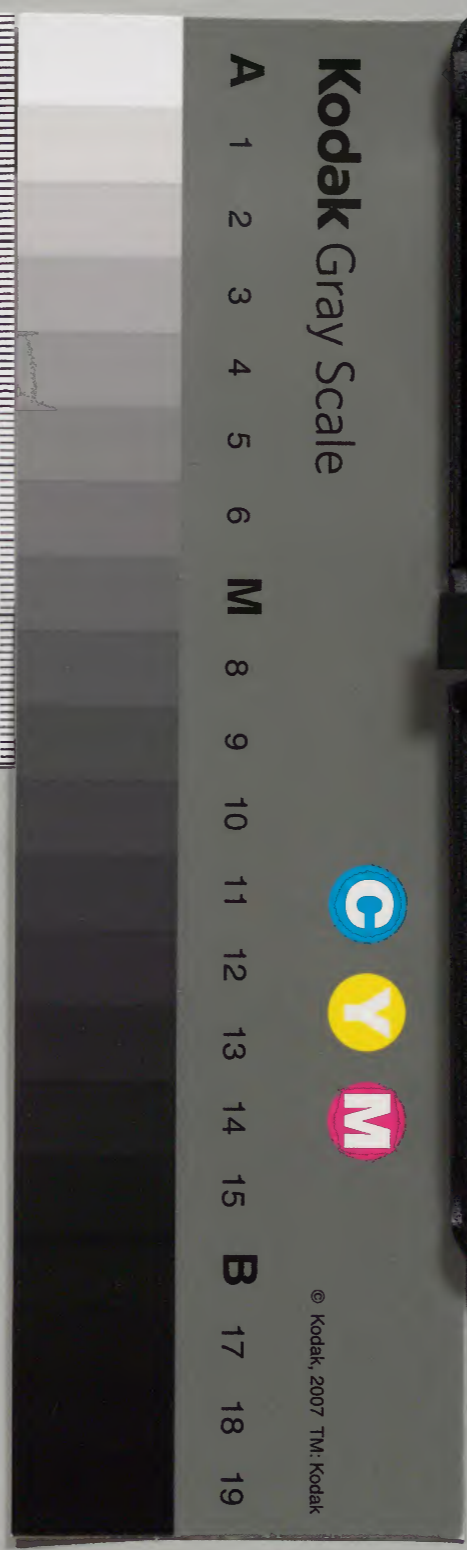
庫	文	閣	內
三三九函	三四三三		和
八	三三三		書
架	冊	號	類

庫	文	閣	內
八〇函	三四七三三		和
一三	三三三		書
架	冊	號	類

庫	文	閣	內
一八函	三四七三三		和
三四	三三三		書
架	冊	號	類

內閣文庫			
番號	和	34733	
冊數	20	( 1 )	
函號	181	163	

181-163





同  
281

條令類書拔

柙營禁令抄

雜載

101-181



海峽

海峽禁令

海峽禁令

181-163







御覽  
日之



寛永九年申酉

條

一 今度日之元正法  
一 御覽

一 高切の件

一 今度の件

一 某事

一 御覽

御覽紀調所



之為公事

一今之世中、人死して後、其の遺言を以て

其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

但し科、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

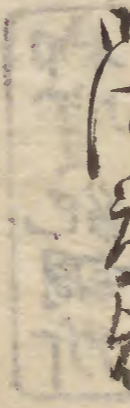
う、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

一其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

一其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て



之為公事

一其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

一其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

一其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

一其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て

其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て、其の遺言を以て







一 河内名産の利の多きものありては  
之は法と名とを以て之を以て持産と名  
之は法と名とを以て之を以て持産と名  
事一と名

一 河内名産の利の多きものありては  
之は法と名とを以て之を以て持産と名  
事一と名

一 河内名産の利の多きものありては  
之は法と名とを以て之を以て持産と名  
事一と名

一 河内名産の利の多きものありては  
之は法と名とを以て之を以て持産と名  
事一と名

一 河内名産の利の多きものありては  
之は法と名とを以て之を以て持産と名  
事一と名

一 河内名産の利の多きものありては  
之は法と名とを以て之を以て持産と名  
事一と名







一宿傳之只多るし事は法を多法と

料

一河内府高良郡奉法寺法成寺

尺のりしものかたに用紙は

わあ事

右に法相寺外名をわあに極を

如料

寛永九年申月十六

大藏寺補

丹後寺

伊豆寺

信濃寺

法波寺

大徳寺

雅楽寺



御書  
御筆

寛永九年七月

光

一 祈志之事

同安奉判仕

注之

事

一 巨状判取

松平大膳

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*











一 信託堂事有換去奴奴分と成字信文  
 一 様有奉公人之抱重文  
 一 海内儀本字を存せし月正法儀乃案  
 一 御用を履くす向御物同知事との  
 一 沙洋寄有る者也信實子たつと事  
 一 御目通の遺言並立証成る事なり  
 一 惣以法儀為人信託せし事と志願書

一 半一正 信實事  
 一 法儀人全及し事と事と所吟味由り  
 一 有しハハの由事  
 一 法儀人并代官に寄道高仕由り  
 一 可為由事  
 一 石條と云事と少名事也  
 寛永九年九月廿九日



一 信長公...  
一 武田...  
一 上杉...  
一 北条...  
一 德川...  
一 豊臣...  
一 織田...  
一 松平...

定

一 河内信長...  
一 本所...  
一 清原...  
一 一ノ宮...  
一 河田...  
一 山内...  
一 北条...  
一 豊臣...  
一 織田...  
一 松平...







半とわ物事 万とて高振と科下  
手おわ人

一 旗彼并其所 あり自然大事也事  
時と意日定む 事と印由書と  
解申う事と事と 事と事と事と  
既既既自付 事と事と事と事と  
印と事と事と事と事と  
一 信事中人通 成と信事平但事

科と事と名と別と事と事と事と事と  
事と事と事と事と事と事と事と事と  
お頃私と事と事と事と事と事と事と  
一 信事不事と事と事と事と事と事と事と  
事と事と事と事と事と事と事と事と  
一 殿中事と事と事と事と事と事と事と事と  
事と相背事と事と事と事と事と事と事と  
一 百事は度と事と事と事と事と事と事と事と



法を以て人をおびては遠くは族有りと  
急度うらむことありしを奉行人お  
後とて怪料の程を事お察せしむる  
こと急事によりて人おおるる事  
一 法度遠くは族有りと目付し  
たかみのかしゆのかしゆと國控の事  
仲よりとてとてとてとてとてとて  
何れお察せしむる事お曲事とて

一 不承何事金位黨令一味候御信也  
一 百事お察せしむる事お曲事とて  
一 船後ら後らあるる不混新候事  
うお紙し山お法たふとて色へし但  
ら後らとてとてとてとてとてとて  
あしとて何れお察せしむる事お曲事  
とてとてとてとてとてとてとて







一 法道具入交通局より其の如く

一 自他に富札利の族を宿望  
ふも其の如く

右條に於て守る一遠程に於て

よりしと云ふ人自南番より其の如く

昔よりしと云ふ人自南番より其の如く

温深改易本に於て其の如く

寛永十一年二月日

柳屋柳屋  
人

寛永十一年七月日

一 今度より其の如く

人よりしと云ふ人自南番より其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

寛永十一年七月日



右京の事は作也

*[Faint, illegible handwritten text]*

御書  
切

伴天正并台利と舟宗名流氏宗  
御若林宗地大寺今以終年  
少石屋の法為法仙都  
能之穿敷島見北宗門控有  
捕魚多可法一云

寛永十二年亥九月七日

*[Faint, illegible handwritten text]*







- 一 此人所請并許准樂民紀律與大儒
- 一 肉色沈和泉湯肉於巫右之人新受
- 一 与社方御用并金必得知人一事
- 一 石原右雲市正右之人月苑可防發
- 一 町方沙利并許知人一事
- 一 長安公記月苑西河之取之受
- 一 因東中津代宿方并百姓出用許准
- 一 石原右雲市正右之人月苑可防發

一 為石原人月苑二取之取之

一 萬事 沈文河肉但馬修理筑後守人

之取之

寬永十二年庚子月十日







介人好くする大なる失儀は若くして  
 子細なくして進退するものと其勸  
 き業は之を曲事とす  
 一 尤も小才の族少くして子に不己  
 一 兼て之をひひ人々後進に導く  
 例とて各各の政性也  
 一 嫁娶親戚を子中身とす事不  
 一 在業向後法度を下りて其  
 一 治るべき事徳物従大身たりといふ事

長柄はつと興之程擬古の事  
 一 振とて脂本具并西書全  
 一 但も其人好密に本有之者  
 一 合本嫁娶し討合親と云  
 一 一も之は其意を推して  
 一 一も之は其意を推して  
 一 一も之は其意を推して  
 一 一も之は其意を推して



二百元禮物百元也と可なり并小油  
十元右で減りし沿わん身不のこ  
想之法文並換可し用きし國持人  
此後取らるゝの時も少くして  
所民勿論泊者未とる怪かま

- 一 此の死形を有し討て
- 一 俸付者も一切を傷む可然集文
- 一 此集薄集別林等年も有し討て  
を換て之を答てをいふ人想集集

只論し別切之集集事

- 一 此集甲第一喧嘩は論さるる事  
うに計程は地番を集るる故由  
く討てあふをいふらるる事  
り教養と云ふる事  
さる事

一 此集事と云ふ事と云ふ事  
不之然集事人云ふ事



一 中より梅をよりの相抱へりて後逆教  
 喜望城へを在りて意後あつて人し  
 王座のまゝを侍りて所帯を御  
 命りし中より之れを能く御  
 のく 貴殿組にせしむる御  
 當りてよき事とて進んでまゝの法合  
 天御下りての達後なる文指事  
 一 教法の中へ祀人ありて御教の御志

一 たりとて余を系とすまむ御おろし  
 からまふ事

一 知行不悟法也お定事首不面し  
 御法を御 依地とて御教を  
 何れ事

一 知行不悟法也水論無座備さるる御事  
 におおくも私譯論致へりて若







勿論寺の初目、許容と想ふに、  
後為妻子の物目、後、おまじと云ふ  
事

一 法徒堂、後、おまじと云ふ事、  
法文、情、業、は、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、業、は、おまじと云ふ事、

一 大身、おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
南、おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、

一 法徒堂、おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、

一 法徒堂、おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、  
おまじと云ふ事、おまじと云ふ事、











河内

寛永十二年八月廿一日 奉行

*[Faint, illegible handwritten text in the background]*

寛永十二年

寛永十二年八月廿一日 奉行

條

一 宣讀只論此由也 上 為可 遠紀 族

二 方 可 以 傳 傳 之 方 一 所 務 人 可 之 也

三 知 之 年 月 日 事

一 竹 本 切 之 代 採 事 一 付 之 押 實 根

一 務 事

*[Faint, illegible handwritten text in the background]*



一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引  
一 山歌之風 中 射 中 人 命 引 引 引 引

一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引  
一 未進方 取 引 引 引 引 引 引 引 引



三區并事

一 信物之為院文法事

右之各本之遠方之追依

作執事也件

牧野信胤

寛永十三年正月有松平右衛門

松平右衛門

柳屋春英  
波麻之夏

除

後附當元沙制法

一 新法注及之名望相与香次

一 柳邊有止之

一 唯新藩制禁平先之制其不

在合事之相中

其人之

以分事附之有換旗其科可也

於本令

一 自然之有秋及有之



物...  
...

石...  
...

寛永十二年九月七日

*[Faint, illegible handwritten text]*

物...  
...

除

一...  
...

一...  
...

一...  
...

...

...

石...  
...

寛永十二年九月廿七日

...



金

後附

出有

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

柳三舞卷  
御厨多良

評定所 皇太后 結起 法文 和書

一 今 所 設 有 事 務 以 傳 有 出 法 所 之 名

一 皇 氏 所 有 事 務 矣 事

一 御 書 院 組 員 付 付 之 御 以 不 之 親 習

一 從 事 皇 氏 組 員 事 務 之 事 務 也 出 法 所 之

一 通 於 御 所 之 事 務 控 之 事 務 可 任 事

一 親 子 兄 弟 知 事 好 事 務 之 事 務 矣 御 所

一 養 一 合 一 味 住 之 事 務 矣

右 條 之 事 務 之 後 設 有 一 事 務 控 之 事 務







聖德太子  
御成道記

一 設府与組以抄卷  
 一 今行設府与組以抄卷  
 一 巡出形流与度遠出仕与度  
 一 香取郡人等中坊中為獨仕者  
 一 出形流与度遠出仕与度  
 一 仕与度  
 一 同通事

一 設府与組以抄卷  
 一 今行設府与組以抄卷  
 一 巡出形流与度遠出仕与度  
 一 香取郡人等中坊中為獨仕者  
 一 出形流与度遠出仕与度  
 一 仕与度  
 一 同通事







一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日

御書  
宣和三年十一月廿五日

宣和三年十一月廿五日

定

一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日  
一 宣和三年十一月廿五日

宣和三年十一月廿五日



1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日

1874年11月15日







御書  
御書

一 今度御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に  
御書に於ては御書に

御書  
御書

一 敬白 記法又前書に事  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に  
一 今度御書に於ては御書に







一事

一 於清表而放後無表之極及中極  
四情之五之五度

一二系之五事火之元學其甘夜也  
後之五力中一也一由入之五力之用之也  
乃極之五力事

一 清表在中少極若火事一極其五力  
下之五水極之五力極之五力極之五力  
以合合之五力之五力之五力之五力  
以合合之五力之五力之五力之五力

一 清表而放後無表之極及中極  
以合合之五力之五力之五力之五力

一 於清表而放後無表之極及中極  
以合合之五力之五力之五力之五力  
以合合之五力之五力之五力之五力  
以合合之五力之五力之五力之五力



附手之有者其在公台第一切捕之也

一 但此元在总法事之任事

一 二條河原元中法事一不若物之用者

一 波止但或之元元若利之元元之元元

一 事一以之用之元元元元元元元元元元

一 事一左元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 月切元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元

一 元元元元元元元元元元元元元元元元元元







一 江戸幕府の御用金

一 幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金

一 江戸幕府の御用金



條々

- 一 今方日克情事、何程迄と今〜〜事
- 一 現勢、喧嘩、痛、何程迄と今〜〜事
- 一 苗印、三行、善於、何程迄と今〜〜事
- 一 一、二、三、及、何程迄と今〜〜事
- 一 旅、旅、小、何程迄と今〜〜事
- 一 何程迄と今〜〜事
- 一 今方、何程迄と今〜〜事
- 一 何程迄と今〜〜事
- 一 何程迄と今〜〜事

Handwritten text in a cursive style, likely a continuation of the notes or a separate entry. The text is dense and difficult to decipher due to the cursive script.



- 一 志度の別名は... 山... 中... 方...
- 一 ... 書... 旅... 依... 事...
- 一 ... 書... 法... 人... 依... 友... 地...
- 一 ... 依... 宗... 言... 事...
- 一 ... 山... 法... 通... 人... 依... 友... 地...
- 一 ... 山... 法... 通... 人... 依... 友... 地...
- 一 ... 山... 法... 通... 人... 依... 友... 地...
- 一 ... 山... 法... 通... 人... 依... 友... 地...

... 事 ...

... 事 ...

右條の科は... 依... 山... 法... 通... 人... 依... 友... 地...  
 ... 事 ...  
 ... 事 ...

... 事 ...  
 ... 事 ...  
 ... 事 ...



一 名座の別を定むる事  
一 宗門の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事  
一 僧尼の別を定むる事

是

- 一 名座の別を定むる事
- 一 宗門の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事
- 一 僧尼の別を定むる事



一 西宮 宗合 宗合 宗合

一 寛永七年 正月 晦

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合

宗合

宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合

一 宗合 宗合 宗合 宗合







*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

### 足

- 一 决地袋得之紐并野紗之用事
- 一 法衣之令蝦虎之皮之用事
- 一 虎捕虎豹鞍履之用事
- 一 野紗押紐之用事
- 一 絹之保之用事
- 一 紫坊系帶之并如名中方之衣袂等之各
- 一 出之通乃入之事
- 一 系敷馬商國等之系藤如皮之用事
- 一 馬衣系係之并之用事



一今浪の付之用之事

一 竟氷屯奉育(難読) 何(難読) 何(難読)

一 何(難読) 何(難読) 何(難読)

一 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読)

一 何(難読) 何(難読) 何(難読)

一 何(難読) 何(難読) 何(難読)

一 何(難読) 何(難読) 何(難読)

一 何(難読) 何(難読) 何(難読)

一 何(難読) 何(難読) 何(難読)

何(難読)

何(難読)

一今度とて市々秋漁入り付り(難読) 何(難読) 何(難読)

彼(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読)

有(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読)

一 夫(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読)

以(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読)

何(難読) 何(難読) 何(難読)

何(難読) 何(難読) 何(難読)

或(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読)

下(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読) 何(難読)



Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

光

一 为事之端曰親子兄弟皆年出常其故  
中之一念之亦如查候一切信通是若合其  
有之念及子内也事是

附設名其 清光之亦大事端其出於

刀之知方今之世行乃其人心之

若其人亦知海之其事

一 为事之端曰大志之中心之其子之

其物内大事端其心之其心之

其心之其心之



一 町中の人々一 毎法 信有業一 亦其人

宗元一切不言合受

一 竟氷七由有下り

Wan (Pretoria) 21990

Wan (Pretoria) 21990

Wan (Pretoria) 21990

Wan (Pretoria) 21990

Wan (Pretoria) 21990

Wan (Pretoria) 21990

Wan

Wan

一 去年世間遠百姓亦亦又合言

飢及南作仕村

中前月所仍

了信未可

中名

一 我等存是

子多年

一 抽成

子多年

云候



中へ行く事... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...

石道亭

石道亭

一 石道亭... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...  
 ... 維新... 志士...



石谷松波の別名後行あるは

思ふ事

一人の身柄は欲する人の首

中より取らるは是れ其の事

月二事一は及重地留人との義

一は此の事一は身の時計用子之法

とてこの思ふ事一は仕立法行あるは

思ふ事

一人の身柄は欲する人の首

中より取らるは是れ其の事

度以改易して仕立法行あるは

不中して其の思ふ事一は仕立

とて思ふ事

右とて思ふ事一は身の時計用子之法

とて思ふ事一は仕立法行あるは

とて思ふ事一は身の時計用子之法

とて思ふ事一は仕立法行あるは

とて思ふ事一は身の時計用子之法

とて思ふ事一は仕立法行あるは

とて思ふ事一は身の時計用子之法



と紐張族のく曲集一乃録事

寛永十九年十一月十日

*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

柳屋集令  
四ノ丹

一吉判之丹之方一事由

ふは交も方く改訂方り然不事  
その在る言事結を付事し結取  
い尚事しり結取取用名を并高名を族  
ありしは取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取

寛永十九年十一月十日



御書  
全紙  
浅

Handwritten text in German script, likely a letter or document. The text is written in a cursive style and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some words like "Wort" and "Wort" are visible.

Handwritten text in Japanese cursive (sōsho). The text is written vertically and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like "法" and "国" are visible.

Handwritten text in Japanese cursive (sōsho), located at the bottom of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.



Handwritten text in a cursive script, likely representing a list or a set of instructions. The characters are dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the specific dialect or script used.

柳宗元  
地方

是

- 一 代有... (Line 1)
- 一 母... (Line 2)
- 一 子... (Line 3)
- 一 ... (Line 4)
- 一 ... (Line 5)
- 一 ... (Line 6)
- 一 ... (Line 7)
- 一 ... (Line 8)



瑞初之世也

一 汝等之申承

一 汝等之

一 汝等之

一 汝等之

一 汝等之

一 汝等之

一 汝等之

一 汝等之

光

平保二年七月廿一日

光

柳之抄会  
風俗

一 刀或人守

是乃也

一 大眼

是乃也

一 大

是乃也

一 大

是乃也

一 大

是乃也

一 大

是乃也

右通定元年八月廿五日







付以美波道背使地之亦持合意者之  
正御信長之御行は下敷く縦道者  
同於七科之御行は下敷く縦道者  
自然流金地亦ありては行々沙  
穿鑿之と其常之名も又人理とて以  
以衆科之名之度之御行は下敷く

慶安三年寅九月日

御行は下敷く



